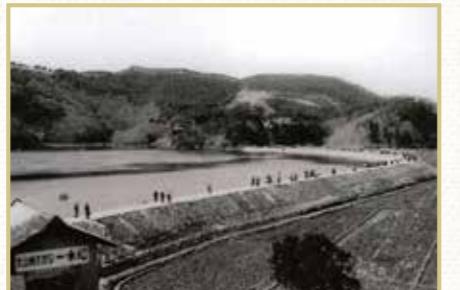


「都沢湿地」の成立と現在

都沢湿地(約7.7ha)は、ブナの原生林が残る高館山(標高274m)東麓の、ラムサール条約登録湿地・大山下池に隣接する低湿地で、昔は人の腰までぬかるむ田んぼでした。作業するのに大変苦労した場所でしたが、収穫されるお米は下池のきれいな水(当時)のおかげでどこよりも美味しかったそうです。減反政策などの影響もあり、1980年代後半頃から一部が、1999年には全域が休耕田となりましたが、その後下池からの滲出水によって湿潤な環境が保たれ、希少な水生動植物が生育する低湿地が成立しました。この環境をどのようにしていくか地域の皆さんや専門家、行政職員など多くの方々が協議した結果、維持管理しながら低湿地を再生していくことが決まりました。

また、これまでの調査によって、①自然遷移による乾燥化、②ウシガエルやアメリカザリガニ、アメリカセンダングサなどの外来

動植物の増殖という2つの課題が在来動植物へ影響し、低湿地再生の妨げになっていることがわかつきました。現在、これらの課題解決のために、市民ボランティアや関係者の皆さんと年間を通じた湿地保全管理イベントをはじめ、様々な活動を行っています。



田んぼだった都沢湿地と下池(1930年頃)



下池の滲出水によって成立した湿地環境(2000年頃)



外来生物捕獲大作戦



アメリカザリガニ釣り大会

学習交流施設

鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」



庄内自然博物園構想の学習交流拠点として2012年に開館しました。年間を通じて、自然環境にかかる学習会や観察会を開催しています。また、水網やバケツ、双眼鏡の貸し出しを実施し、来館者が周辺の自然環境と触れ合う機会を提供しています。



施設情報

〒997-1125 山形県鶴岡市馬町字駒3-1 TEL:0235-33-8693 FAX:0235-33-8694 Email:info@hotoria-tsuruoka.jp

URL:<http://www.hotoria-tsuruoka.jp/> 開館時間:午前9時~午後4時30分 休館日:毎週火曜日、年末年始(12月29日~1月3日)

入館料:無料 駐車場:普通車20台、身障者用2台

※火曜日が祝休日にあたる場合「その日後においてその日に最も近い平日(休日以外の日)」が休館日になります。

庄内自然博物園構想推進協議会／事務局 鶴岡市環境課 TEL 0235-25-2111

写真提供：伊藤佳典、中野喜吉、林田光祐、水野重紀、和田亮、大山自治会、鶴岡市自然学習交流館



都沢湿地
みやこざわしつ
庄内地域の低湿地再生への挑戦
さわち

庄内自然博物園構想

都沢湿地、高館山、大山上池・下池を自然学習のフィールドとして、子どもたちをはじめ市民みんなが自然との一体感を享受できるように、

自然と触れ合う機会を創出することを基本理念としています。

その中でも、構想の重点区域となるのが都沢地域です。



● 都沢湿地の再生の取り組み

じんいてきかくらん
人為的攪乱による埋土種子の活用
まいどしゅし
～土の中に眠る種子を目覚めさせよ！～

都沢湿地では土壤を積極的にかき混ぜ=『攪乱』、
土の中に眠る種子=『埋土種子』を蘇らせることで、
湿地環境を維持する試みをしています！

重機による湿地攪乱

都沢湿地のような低湿地は、本来、洪水などの自然の力で頻繁に壊される場所に成立します。しかし、低地では人も生活するため、近年、このような自然災害が起きないような対策がとられています。このままでは、湿地は森林へと変わってしまい、湿地環境で生息する多くの動植物は姿を消すことになります。

そこで、私たちは自然の代わりに、重機や人の手を使って湿地の土をかき混ぜ、湿地環境を維持する試みを始めました。この方法によって、土の中に眠る植物の種子が目を覚まし、昔の湿地に生えていた絶滅危惧種のミズアオイやミクリ、ジュンサイが出現しました。また、湿地環境の再生は、アメリカセンダングサなどの非湿生の外来植物の定着の防止にも繋がります。



攪乱した翌年の状態



攪乱後に出現したミズアオイ
国:NT、県:EN



攪乱後に出現したミクリ
国:NT、県:NT



攪乱後に出現したジュンサイ

増え続ける「外来生物」の対策

～外来生物の導入背景を学び、おいしく食べて保全への挑戦！～

都沢湿地には、大正時代に日本に食用として北アメリカから持ち込まれたウシガエルと、その餌であるアメリカザリガニがあります。

都沢湿地では、2012年度よりワナによる定期駆除活動を開始し、毎年ウシガエル約1,000個体、アメリカザリガニ13,000個体を捕獲し、捕獲数の変化や食べているもの(食性)を調べています。

その結果、ウシガエルは、アメリカザリガニ以外にもクモやアメンボ、ガムシなど陸上、水辺を問わず、たくさんの生きものを食べていることがわかりました。

また、アメリカザリガニは湿地の植物を切ったり、食べたりすることもわかつてきました。そこで、湿地内に自分たちの手で外来生物排除区域を設置し、外来生物の侵入を防ぎつつ、動植物の回復させる試みも開始しました。

いまでは、厄介者と駆除している外来生物ですが、もともとは人が連れてきた生きものです。知らない国で一生懸命に生きている外来生物には罪はありません。そこで、2014年度から食として再び活用するために、市内の料理店で料理として提供はじめました。市民が食べることで保全に繋がる新しい試みにも挑戦中です。



● 都沢湿地に生息する動植物

都沢湿地には、年間を通じて様々な生きものがくらしています。活動の効果によって、外来動植物は減少し、一部ですが復活してきた動植物も確認されるようになりました。

トンボ



名前の通り、雄は成熟すると全身に粉をまとう中型のトンボ。雌の中には、翅に茶褐色の帯状の斑がでてくる異色型もいる。都沢湿地では、5～9月に多数確認。

赤とんぼを代表するトンボ。初夏に平地で羽化し、夏は避暑地へ移動。秋に産卵のために平地に戻る。近年、農薬の影響でその数が心配されているが、都沢湿地では秋に多数確認。

植物



池などの水辺に生育する多年草の湿性植物。本種は精油成分を含むため、大変香りがよい。そのため、端午の節句の飾りや「しようぶ湯」として利用。都沢湿地の散策道でも確認。

畦畔や農道などに生育する多年草の湿性植物。7～8月から紅紫色の花を咲かせる。また、本種はお墓やお仏壇に供える盆花としても知られている。

野鳥



夏になると都沢湿地に飛来し、数本のヨシを束ねて椀型の巣をつくる。鳴き声の「行々子(ギョギヨシ)」は特徴的で夏の季語にもなっている。

魚



現在、メダカは2種に分けられ、都沢湿地にはキタノメダカが生息する。ただし、都沢湿地の本種は絶滅したと考えられ、現在は有志によって庄内町産の個体を放流したものが生息している。

外来動植物



特定外来生物。陸上、水辺問わざず多様な生き物を捕食。1980年代頃まで、都沢湿地周辺にあった料亭があり、動物の体にくつき広がる。都沢湿地では、駆除活動の成果によって減少傾向にある。

復活する動植物



北アメリカ原産の一年草。種子は別名「ひつつき虫」と呼ばれ先端に棘があり、動物の体にくつき広がる。都沢湿地では、駆除活動の成果によって減少傾向にある。

復活する動植物



大型の水生昆虫。都沢湿地のウシガエルの胃の中から確認され、捕食による影響が危ぶまれる種。しかし、駆除活動の成果によって減少傾向にあるが、一年草なので油断できない。



美しい黒藍色の翅を持ち、チョウのようにひらひらと優雅に飛ぶ中型のトンボ。近年、都沢湿地では初夏から夏の間に林縁部近くで確認。

池や湿地などに生育する多年草の水生植物。矢じりのような葉が特徴。庄内平野の水田では防御雑草。都沢湿地では、攪乱を行った場所で生育を確認。



水田や湿地などに生育する多年草の水生植物。矢じりのような葉が特徴。庄内平野の水田では防御雑草。都沢湿地では、攪乱を行った場所で生育を確認。



小さな体と鋭い口ばしでカエルや昆蟲を捕まえる湿地のハンター。「はやにえ」という獲物を串さしにする習性がある。



細長い胴体、口の周りに10本のひげ、愛嬌のある姿でお馴染みのドジョウ。浅い泥底にて、泥を巻き上げて動くので見つけやすい。



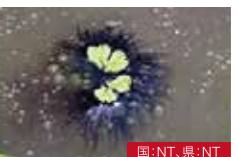
子どもたちの好きな湿地の生き物ランキングNo.1。しかし、本種による水生植物の切断は全国的に問題になり、都沢湿地でもその被害が確認されている。



北アメリカ原産の多年草。地下部からアレロバシー物質を分泌し、他の植物の発芽を抑制するため、純群落を形成。都沢湿地では、駆除活動の成果によって減少。



主に水田に生息するホタル。農業や乾田化によって、全国的に数が減少。都沢湿地では、サポートによる本種の生息調査が実施され、湿地内で生育数が減少。都沢湿地では攪乱初期に見られる。



イチョウの葉に似た葉状体を持つ水面に浮遊するコケ植物。本来は、水田などで見られたが農薬散布などで幼虫も確認。